

本日、「第 26 回 日本がん看護学会 学術集会」が この島根・松江の地でこのように盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

全国各地からお集まりの皆様を、心より歓迎申し上げますとともに、皆様方には がん看護に関する研究や教育、実践にご尽力されていることに深く敬意を表する次第であります。

さて、がんは 3 大疾病の 1 つであり、がん対策は国民の生命と健康を守る上で重要な課題であります。

島根県におきましては、平成 1 8 年に全国に先んじて、がん対策条例として「島根県がん対策推進条例」を制定し 平成 2 0 年 3 月には「島根県がん対策推進計画」を策定いたしました。

実は、この島根のがん対策につきましては、出雲市に佐藤さんという方がおられまして、がんをお患いになっておられましたが、島根のがん治療の体制整備が遅れていることを県や国に強く訴えられ、これにより県議会での条例制定など島根のがん対策が進んだ、ということがありますので、ご紹介いたします。

県では、現在、「島根県がん対策推進計画」に基づき、75 歳未満のがん年齢調整死亡率の低減、がん検診受診率の引き上げ、がんの薬物療法、放射線療法に精通した医師の確保などを重点目標に、がん対策の強化に取り組んでおります。

また、島根県は「がんサロン」が早くから できたところであります。平成 17 年に、益田市で初めて「がんサロン」がつくられ、現在では県内で 27 ヶ所となり、県内のほぼ全域に広がっております。

島根県ではがんサロンにおいて、がん患者や家族の皆様と行政との意見交換会を開催するなど、患者、家族の皆様にも参画をいただきながら、医療関係者、行政、議会、企業、メディアなども一緒になってがん対策に取り組んでいるところであります。私どもこうした 7 つの関係者ということで七位<sup>み</sup>一体のがん対策とっております。

そして、こうしたがん対策を進める上では、医療水準の向上や、がん看護の質の向上が極めて大事であります。

中でもがん看護は、患者のクオリティ・オブ・ライフ（生活・生命の質）への配慮、緩和ケア、初期診療から社会復帰に至る支援など、高い専門性が必要とされております。このため、島根県でもがん専門看護師の育成のための助成や研修事業を展開しております。

このような中、全国各地からがん看護に携わる皆様が一堂に会され、がん看護についてお互いに学び合われることは、誠に意義深いことでもあります。今回の学術集会のご成功をご祈念申し上げます。

さて、今回のテーマは「縁<sup>えにし</sup>が結ぶシームレスのがん看護」ということですが、出雲大社は古来より縁結びの神様として知られております。

旧暦の10月頃には、全国の神々が出雲へ集まれ、縁組みなどの相談をされると言われており、全国的には「神無月」ですが、出雲地方では「神在月」と呼ばれております。

今年は、出雲を舞台とした神話が数多く登場する「古事記」が編纂されて1300年目を迎え、来年には出雲大社で60年に一度の大遷宮が執り行われます。

県では、これを契機に島根の魅力を全国に発信するため「神々の国しまね」プロジェクトを進めております。皆様方には、この機会に島根の古き良き世界にも足を運んでいただければ幸いです。

終わりに、日本がん看護学会のますますのご発展と、ご参加の皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶といたします。